

南西側の岩盤（頂高25 cm）は干潮時に干出する。その北側は1～5 m内外の小岩盤や転石が多く、水深0.5 m前後の浅瀬が散在する。海底地形は、全体的に西から東へ緩やかな傾斜をなしている。

3) 恩納村の富着、オンナマリーナ、伊武部、伊武部岬と西表島、竹富町の大原地先

各調査測線の地形を図2に示した。恩納村の前3調査地点では、裾礁が発達し、屋嘉田海域と同様な海底状況を示す。伊武部岬の調査地点は、岬の先端部で裾礁の幅が狭く、礁池がみられない。

大原地先の調査地点は、西表島仲間崎の東方約5 km海上に位置する浅瀬を横断する測線で、ホンダワラの生える頂部が水深0 m前後の石灰岩質岩盤よりなり、大潮干潮時には干出する。アジモ場の底質はほとんどが砂、一部に礫の少ない地帯がある。また、サンゴがわずかに生育する岩も点在する。

2. 気象

調査方法

気温、降雨量は沖縄県農業基本計画で取りまとめられた沖縄気象台資料を、風向、風速については沖縄気象台の観測資料をそれぞれ使用した。

調査結果と考察

a. 気温

昭和42年から昭和47年の年平均気温は21.4℃である。月別平均気温をみると、北寄りの季節風の吹く1月に14.8℃と最低になり、水蒸気を多量にふくんだ熱帯気団におおわれる8月に28℃と最高になる。年較差は13.2℃と小さく、亜熱帯性気候の特徴を示している（表4）。

b. 降雨量

年平均降雨量は2,350 mmで比較的多雨である。特に5月から8月の降雨は梅雨及び台風の影響により月平均300 mmを越え、12月から3月のその2.3倍に達する。しかし、また一方では、台風の接近が少なかったり、時期がずれたりすると旱魃に見舞われることが多い（表4）。

c. 風向、風速

月別にみると、10月から翌3月までは、北から北東方向の風が卓越している。4月からは次第に東から南寄りの風が増加し、6月から7月には南南西から南東の風が多くなる。

8月には再び東寄りの風が増加し、9月には東の風が顕著になる（図7）。

表-4 気温と降水量

月	項目	月平均気温 ℃	月平均降水量 mm
1		14.8	131.0
2		15.0	110.3
3		16.4	140.8
4		20.0	97.6
5		23.2	281.7
6		25.6	395.9
7		28.0	229.9
8		27.5	320.5
9		26.3	114.0
10		23.2	241.8
11		20.2	143.8
12		16.5	138.1
年		21.4	2,344.7
統計期間		昭和42～47年	昭和42～47年

資料：沖縄気象台、名護の「気候略表」